

報告 第26回女性会連盟総・大会

主の御名を讃美致します。

6月7日～8日にかけて日本福音ルーテル教会女性会連盟第26回総・大会を東京教会で開催しました。今回は6年ぶりの集まったの総・大会となりました。

前はコロナの為にオンラインでの熊本からの発信でしたが、今回は196名の方々が全国各地から出席されました。

前期(25期)では、主題「主イエスのまなざしと出会う」、副主題として「神様に、隣人に、そして社会に仕える」「喜ぶ人と喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマの信徒への手紙12章15節)と題して3年間の歩みが報告されました。

1日目の最初の開会礼拝では、「隣人とは誰か」との題で永吉秀人牧師(日本福音ルーテル教会総会議長)が説教され、その後ご召天された138名の方々に覚えて祈りを捧げ、聖餐式では共に神様のお恵みに与ることが出来ました。



そして講演では、日本キリスト教団の平良愛香牧師による「性的マイノリティであるLGBTの方々が安心していられる場所は、全ての人々が安心していられる場所」のお話を聴きました。平良牧師は沖縄出身で、自分が男性同性愛者であることをカミングアウト(同性愛者であることを公表)して牧師になられました。「性の多様性を知ってほしい。そしてみんなが違いを認めて仲良くなり、みんなが安心して住める日本になってほしい!」と話されました。

その後、総会の審議に移行しました。会長報告でそれぞれの活動報告がなされ、特に女性会の高齢化と会員数の減少が課題とのお話でした。又、書記、広報や事務局、各教区からなどの報告がなされ、1日目終了しました。

続いて、場所を変えてバトール東京で愛餐会が行われました。愛餐会では女性会連盟が支援している各施設などが紹介され、それぞれのテーブルでは、各地から来られた方々と話が弾んでいました。

2日目は残りの審議がなされました。25期の決算承認、30年続いたサバ神学院神学生支援の終了が決定し、そしてその支援金をルーテル神学生支援に充てることも承認されました。しかしながら、今後もサバ神学院とは友好関係を保っていけることを願っています。

又、今課題となっている高齢化や会員数の減少、それに伴う休会教会の増加など、今後の女性会連盟のあり方を検討していく上で委員会を立ち上げることになりました。「在り方検討委員会(仮称)」を設置する。

最後に26期の主題と活動方針、予算が承認されて、新役員の就任式が滞りなく行われ、また、それぞれの場所に遣わされていきました。力強い讃美に励まされ、恵み多い総・大会でした。心から感謝します。

(報告 中島千麻子)

